

令和6年度 第1回 八千代市立郷土博物館協議会会議録

会議名 令和6年度第1回八千代市立郷土博物館協議会

日時 令和7年1月21日（火）

開会 午後2時00分

閉会 午後3時30分

会場 八千代市立郷土博物館学習室

報告事項

- | | |
|---------------------------------|-----|
| （1） 令和5年度 八千代市立郷土博物館事業報告 | 資料1 |
| （2） 令和6年度 八千代市立郷土博物館事業報告（中間） | 資料2 |
| （3） 令和7年度 八千代市立郷土博物館事業計画（案）（骨子） | 資料3 |

視察

- （1） 令和6年度 特別展「くらしのうつりかわり展 ～衣食住と学～」

出席者

委員 久留島 浩	人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館 名誉教授 前国立歴史民俗博物館長
齋木 健一	千葉県立中央博物館 主任上席研究員
やまき 八巻 憲一	八千代市子ども会育成連絡協議会会長
小林 弘治	学校法人 聖書学園 千葉英和高等学校 非常勤講師
目黒 英樹	八千代市立勝田台南小学校長

事務局 教育長	嶺岸 秀一
教育次長	伊藤 栄治
文化・スポーツ課長	大野 光弘
館長	中村 元重
主査補	安藤 茂和
主査補	勝見 俊介
文化財主事	吉田 赳
主任主事	常松 成人
資料調査研究員	野中 政博

公開・非公開 公開

傍聴人定数 5名

傍聴人 1名

会議録

開会

○**勝見主査補** 郷土博物館の勝見です。時間となりましたので、ただ今から令和6年度第1回八千代市立郷土博物館協議会を開催させていただきます。

「八千代市立郷土博物館協議会運営規則」第3条第2項により、「会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。」とあり、本日は5名中5名の委員の御出席をいただいておりますので、会議として成立しております。

なお、当協議会は「八千代市審議会等の会議の公開に関する要領」第3条に基づき公開対象となっており、1名の市民の方が傍聴を希望されておりますことを報告いたします。

傍聴者の方は、受付にて配布いたしました傍聴証裏面に記載されている事項につきまして、ご理解いただきますようお願いいたします。

はじめに、資料の確認をいたします。委員の皆様には事前にお送りしておりますが、机上にも用意しておりますので、そちらをご確認ください。まず①会議次第と②席次表、A4・1枚になります。続いて③資料1、④資料2、⑤資料3、ホチキス留めでございます。また、⑥市内民俗行事調査票、⑦今年度の館報、⑧くらしのうつりかわり展の展示解説書。以上、8点になります。

なお、事前にお送りした資料1の6ページの委託料の内容に昨年度のものが記載されておりました。大変失礼いたしました。机上にあるものが最新版となりますので、そちらをご使用ください。

1 委嘱状交付

では、会議次第に従いまして、進めさせていただきます。初めに、委嘱状交付式をとりおこないます。教育長より、委嘱状を交付させていただきます。

最初に久留島委員からお願いいたします。

(以下、席次順に交付)

ありがとうございました。委員の皆様には令和8年7月19日まで宜しく申し上げます。次に八千代市教育委員会 嶺岸秀一教育長から、ご挨拶を申し上げます。

どうぞ、よろしくお願いします。

2 教育長あいさつ

○**嶺岸教育長** 令和6年度第1回八千代市立郷土博物館協議会の開催にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

委員の皆さま方におかれましては、公私ご多忙の折ご出席賜りまして感謝申し上げます。

ちょっと本題に入る前にですね、少し今の学校教育また生涯教育についてですね、情報共有させていただきたいんですが。去る1月12日日曜日八千代市において成人式が行われまして。今年度20歳になる方々に成人式を行ったと思いますが、今年度は八千代市の新成人が2,101名ということでございます。その中で当日参加した成人の方々をお伝えしますとですね、1,384人。割合にすると約66%の方々が出席していただきましてですね、前年比でいうと4.8%の増ということでした。

当日私の方も、成人の会の式典の方に主催者として参加させていただくとともにですね、終わった後のセレモニーについては、本当に今年度の成人の方々を収集した実行委員にOBが50名いるん

ですけども、非常に落ち着いた中に本市のビデオレターがあつたりとかですね、本当に心温まる非常にあたたかい式だったなど。とっても八千代市の良さが出ている、そしてこれからの未来が少し明るい兆しが見えた、そんなような1日でした。

またですね、実は出発は明日になるんですけども、出発式はこの前の土曜日だったんですけど、明日1月22日に第37回の姉妹都市であるタイの親善大使が出発ということになります。具体的に言いますと明日朝7時半にバスが成田空港に出発するということで、八千代市内の児童生徒の全部で12名。今回の代表は豊田事業管理者が団長ということで、帯同の7名と組んで19名の親善団が明日から8日間にわたってタイの方に行くということです。私も以前3回ほどタイの親善大使に同行させていただいて、非常に神社仏閣含めて、文化民族含め優れた「微笑みの国」でした。

また、昨年7月に協議会委員の改選がござまして、委員への就任をご承諾いただきましたこと、改めて感謝申し上げます。

私も昨年の10月1日に新たに八千代市教育長として就任しましたが、郷土博物館につきましては、過去に1年だけなんです市史編さんという事業に携わらせていただく中でそういった経験もあったことから、非常に馴染み深い、もっといえば、博物館もなくてはならない八千代市として守るべき施設の一つだと踏まえております。

さて昨年12月に既に報道があったように、お隣の佐倉市にあるDIC川村記念美術館が民間経営ではありますが規模縮小のうえ、都内に移転する方針が発表されており、博物館・美術館・水族館等のミュージアムを取り巻く環境や状況が普遍的でなく変わりつつあるを感じています。

今後もそのような状況が続く事も考えられますが、本市の自然・歴史・文化・産業などに関わる資料の、収集・保管・管理・調査を行い、展示・公開等の様々な業務に当たりながら、引き続き様々な博物館を取り巻く課題について委員の先生方のお力を借りながら、迅速に対応を進めていきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

最後に本日は「くらしのうつりかわり展 ～衣食住と学^{がく}～」を視察していただきますが、例年の衣食住の生活の変化を基本テーマに、今回は昔の教科書や現在までの学習環境の変化を展示しておりますので、是非ご覧になっていただきたいと思います。

本日は、委員の皆様から、忌憚のないご意見をいただく機会を設けてございますので、本当に重ねて、活発な、どちらかというと聞き心地が我々としては難しい部分はしっかりと伝えていただきながらですね、我々事務局としては未来に向かって善処していく、改善していきたいということも心がけておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。以上でございます。

3 委員・事務局紹介

○勝見主査補 ありがとうございます。それでは委員・事務局紹介に移ります。司会より簡単な紹介を順番に行いますので、委員の皆様には一言いただきたいと存じます。

(久留島→斎木→目黒→小林→八巻の順に紹介)

それでは久留島委員の紹介から始めさせていただきます。

久留島委員は、東京大学文学部福祉学科を卒業後、千葉大学の助教授などを歴任し、平成10年には国立歴史民俗博物館歴史研究所教授、その後、平成26年度からは、国立歴史民俗博物館長に就任され、令和2年に退職の後、現在は国立歴史民俗博物館の名誉教授として活躍されております。

それでは久留島委員、お願いいたします。

○久留島委員 久留島でございます。歴博を離れて久しいんですけども、昨日実は対馬・壱岐の壱岐島に行ってきました、壱岐市の「^{いきこく}一支国博物館」ってのがあるんですけど、そこをちょっと見学して、すごく教育のいろんな工夫をしていることを見せいただきまして、私自身もすごく勉強なっただけです。DIC博物館も川村さん自身は生涯教育を一生懸命やっておられたんですけども、博物館協会はかなり厳しい状況にあると。地元根づきながら、地元子ども達に対してどういう教育ができるか。来た人達に対してどういう教育効果が発揮できるかっていうのが博物館の勝負の一番のポイントじゃないかというふうに改めて思っていました。微力ですけど、八千代の郷土博物館に協力させていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

○勝見主査補 ありがとうございます。続いて、斎木委員です。

斎木委員は、東京学芸大学教育学部を卒業後、同大学院の教育学研究科修士課程や、東京大学院の医学系研究科、博士課程を修了、平成4年から北海道三笠市立博物館にて、2年勤務の後、平成6年から千葉県立中央博物館にて活動され、令和2年から千葉県立中央博物館分館 海の博物館分館長に就任されました。令和5年に退職後、現在は千葉県立中央博物館にて、主任上席研究員としてご活躍されております。

それでは斎木委員、一言お願いいたします。

○斎木委員 ご紹介に預かりました斎木です。海の博物館で3年間分館長やったんですけども、ちょうどコロナの時期に重なりまして、地元の小学校・中学校と全く交流ができないというのがございました。その後、現在は交流が復活しているんですけども、どこの博物館でもそうですけども、一旦ちぎれてしまった交流はなかなか元には戻らない。先生方も転勤してしまうと、それまでの何月ぐらいだったら博物館に話をしてくるようになって来てもらおうねっていうようなことが全部ちぎれてしまったんですね。ですので、今どこの博物館でもそれをもう1回戻しているわけですね。普段にもいつにも増した努力をしないと元に戻らないという状況があるかと思います。うちの中央博物館もそうですし、おそらくこちらでもそれで大変苦勞されているだろうと思います。そういった点を情報共有して、何とか良い方向にできればと思っていますので、よろしくお願いいたします。

○勝見主査補 次に、目黒委員です。

目黒委員は、大学卒業後、平成2年に千葉市立山王中学校に赴任したのち、平成6年から八千代市立大和田中学校に赴任し、その後、市内の小・中学校で校長を歴任され、令和5年度から、八千代市立勝田台南小学校校長として、現在も活躍されております。

目黒委員一言お願いいたします。

○目黒委員 はい。私自身50年以上もう八千代市にお世話になっておりまして、今勝田台南小学校において年配の自治会の会長さんなんかと中心にいろいろ地域の活動している中で、やっぱりよくお話をするのが、非常にもう伝統とか文化というのが非常に伝わりにくい環境にあると。私自身も今マンションに住んでるんですけど、隣の人やどういふ人がよくわかりません。そういう時代に、いろんなことを、伝承っていうんですかね、それをやってくのっていうのはとても大切だというふうに考えております。今日の会議が充実するようによろしくお願いいたします。

○勝見主査補 次に、小林委員です。

小林委員は、大学卒業後、八千代市立八千代中学校に赴任し、その後、市内の中学校で教師を歴任され、その中で、平成22年から5年間、八千代市立郷土博物館、当館において学芸員として勤務しておりました。

その後、平成27年から市内中学校に教師として戻られ、令和4年から現在も千葉英和高等学校

の非常勤講師を務める傍ら、公民館などでも歴史講座講師を務めるなどの社会教育活動にも取り組み、ご活躍されております。

小林委員、一言お願いします。

○**小林委員** 小林と申します。私郷土の歴史ですとか文化ですとかそういったものを研究させていただいてるところなんです、そうしますと、こちらの地域博物館がですね、期待するところも大変大きいところがございます。その思いを込めましてですね、少しでもお役に立てればなと、お手伝いできればなと思いますので、どうぞよろしくお願いしたいと思います。

○**勝見主査補** ありがとうございます。次に、八巻委員です。

八巻委員は、高校卒業後、平成28年から八千代市学校適正配置検討委員や、八千代市地域福祉計画及び地域福祉活動計画策定協議会などの市行政会議に携わるとともに、地元大和田小学校の評議員やPTA会長を歴任されております。

また、令和4年から八千代市子ども会育成連絡協議会会長に就任され、現在の八千代市の社会教育や家庭教育の向上に資する活動や取り組みなどにご活躍されております。

それでは八巻委員、お願いいたします。

○**八巻委員** 八巻でございます。私は今回子ども会からこちらに委嘱されました。子ども会ですね、子ども達に体験活動を主にさせるということと、郷土愛というところを醸成していくということが主な目的になってるのかなと思っています。歴史・文化とかっていう部分をうまく子ども達に伝えていくために、この博物館と連携していくことが、八千代に住んでよかった八千代に生まれてよかったと思える子ども達を作っていくことになるのかなと思いますので、うまく連携してやっていければいいかなと思います。よろしくお願いいたします。

○**勝見主査補** 皆様、ありがとうございます。引き続き事務局の紹介に移りたいと思います。

(嶺岸教育長→伊藤教育次長→大野文化・スポーツ課長→中村館長→常松主任主事→吉田文化財主事→野中資料調査研究員→安藤主査補の順に紹介)

最後に司会の勝見 俊介です。以上が事務局の紹介となります。

4 委員長・副委員長選出

○**勝見主査補** 次に、委員長・副委員長の選出を行います。委員長・副委員長は、「協議会運営規則」第2条に「委員の互選によってこれを定める」とあります。どなたか、ご発言をお願いいたします。

○**小林委員** これまでの豊富な研究や博物館事務に関する経験、そしてこれまでの委員の経験が豊富な久留島委員を委員長に。併せて同じく経験豊富な斎木委員を副委員長に推薦します。

○**勝見主査補** ただいま、小林委員から、ご発言がありましたが、他にご意見有りますでしょうか。特に無いようでしたら委員長を久留島委員、副委員長を斎木委員にお願いしたいと思います。

それでは久留島委員、委員長席へご移動お願いいたします。

5 委員長・副委員長あいさつ

○**勝見主査補** では久留島委員長・斎木副委員長より挨拶をいただきたいと思います。

○**久留島委員長** うまく勤まるかわかりませんが、先ほど大分長く話しましたので、挨拶は短めにさせていただきますけども、まさに皆さんのご意見を伺いながら、郷土博物館が今後ちゃんと発展できるように、少しそれができればいいなと思っております。よろしくお願いします。

○**斎木副委員長** 斎木です。副委員長をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○**勝見主査補** ここで嶺岸教育長ですが、他の公務がございますので、退席させていただきます。(嶺岸教育長退席)

それでは議題に移りたいと思いますので、協議会運営規則第3条により、ここからは久留島委員長に議長をお願いいたします。

では会議の審議を議長をお願いいたします。

6 議題

○**久留島委員長** それでは、令和6年度八千代市立郷土博物館協議会を開催いたします。

本日の審議事項等に関する資料も事前に送られご覧になっていらっしゃると思いますので、できるだけスムーズに会議を進めさせていただきたいと思っております。

はじめに、議題(1)として、「令和5年度事業報告」が提出されております。議題(2)「令和6年度事業報告(中間報告)」が提出されておりますけれども、関連することがございますので、事務局の方から併せて(1)、(2)の議題について説明をお願いいたします。

(1) 令和5年度八千代市立郷土博物館事業報告

○**中村館長** 令和5年度の八千代市立郷土博物館事業について報告いたします。

それでは配布資料1の項目、2資料からご報告します。①収蔵資料は民俗資料や写真資料等が全部で47,140点の収蔵数でした、②資料の修補は定期的に修補を38回行いました。③図書資料は他市等から寄贈された図書類を、新たに322冊追加しました。

3調査・研究については、市内の民俗行事の調査を中心に13回実施しました。

4展示については、①常設展示は新川流域を中心とした八千代の自然・歴史・文化・産業を常設展示室にて行っていますが、その展示の民俗展示部分の一部をレイアウト変更しました。②企画展示は「発掘やちよ新情報～古代集落と中世城館～」を実施しました。③特別展示は県巡回展「令和5年度出土遺物公開事業 流山新市街地地区の遺跡展 大地より出でし先人の足跡」と「くらしのうつりかわり展 ～資料から知る阿蘇・米本地域～」の2つを実施しました。それ以外にも④ロビー展示として、新たに博物館で日常的に行っている調査・研究、資料の収集・補修活動を紹介した「やち博コレクション」1つ追加した4つを実施すると共に、⑤郷土博物館で活動している同好会連携展示として、3つの作品展示を実施しました。

5学校連携については、小・中学校の出前授業や来館見学等で40件の依頼がありました。

6市民学習の支援については、市民学習の支援として様々な講座や体験、解説会、観察会等を行いました。代表的なものとして企画展の内容の解説会や講演会、古文書に親しむためのレベルに合わせた古文書講座、八千代市の自然を学ぶ自然観察会、そして子ども向けになりますが、昔遊び体験や、モノ作り体験等を実施しました。

7地域協働については、東京成徳大学と連携した「伝統装束体験」、公民館や図書館と連携した各種講座を7回実施する事が出来ました

8広報については、引き続きホームページや広報やちよ等での情報発信を行いました。

9決算額については、歳入では新型コロナウイルス感染対策対応地方創生臨時交付金としてトイレの手洗い自動水栓化事業が完了した為、令和4年度より減額となっております。

歳出では郷土博物館運営事業として令和4年度に比べると墨書土器複製作業委託の支出が増えましたが、それ以外については概ね前年度と変わっておりません。郷土博物館維持管理事業については、委託料のハロゲン化物消火設備容器交換業務委託が完了したため、令和5年度は大幅な減額と

なっております。また工事請負費として郷土博物館に引き込んでいる、高圧電源設備の一部となる高圧気中負荷用開閉器交換工事も実施しました。

令和５年度 郷土博物館事業報告は以上です。

(２) 令和６年度八千代市立郷土博物館事業報告（中間報告）

○中村館長 続きまして令和６年度の八千代市立郷土博物館事業（中間）について報告いたします。

それでは配布資料２の項目、２資料からご報告します。①収蔵資料は民俗資料や写真資料等が１２月末時点で、全部で４７，３９４点の収蔵数でした、②資料の修補は定期的に修補を、２１回行いました。③図書資料は、新たに１９６冊追加しました。

３調査・研究については、１２月２０日時点で地元の民俗行事の調査を９回実施しました。なお詳細については、本日お配りした市内民俗行事調査資料を確認ください。

４展示については、①常設展示は説明板を最新の情報に変更しました。②企画展示は「水とともに～睦村の歴史～」を実施しました。③特別展示は秋の収蔵品展「祈る心、祝う心」と「くらしのうつりかわり展 ～衣食住と学～」の２つを実施しました。それ以外にも④ロビー展示として、４つを実施すると共に、⑤郷土博物館で活動している同好会連携展示として３つの作品展示も計画しています。

５学校連携については、小・中学校や高等学校の出前授業や来館見学等で２８件の依頼がありました。

６市民学習の支援については、市民学習の支援として様々な講座や体験、解説会、観察会等を行いました。今年度も昨年に引続き企画展の内容の解説会や講演会、古文書に親しむためのレベルに合わせた古文書講座、八千代市の自然を学ぶ自然観察会、そして子ども向けとなる昔遊び体験や、モノ作り体験等も実施しました。

７地域協働については、令和５年度に引続き本年度も「伝統装束体験」の開催を予定しています。

また公民館や図書館との連携として、講座や現地解説会等を実施し公民館等関係機関との連携を強化しました。

８広報については、引き続きホームページや広報やちよ等での情報発信を行いました。また八千代市役所の情報配信システムからＬＩＮＥ等のＳＮＳによる情報発信も可能となったことからＳＮＳでの情報発信も行いました。

なお予算については、令和６年度の歳入は令和５年度に比べ特に変更はありません。歳出に関しては郷土博物館運営事業の委託業務として八千代市指定文化財の墨書土器１点の複製業務委託を引き続き予算化できたことから新たに複製品を作成しました。博物館維持管理事業については、工事請負費として敷地内に電気を引き込む際に必要な高圧ケーブルの更新工事等を実施しております。

令和６年度 八千代市立郷土博物館事業（中間）の報告は以上です。

私の方からの概要説明は以上となります。代表的な企画展の説明として、令和６年度に実施した企画展を野中より説明。その後、学校連携事業を勝見より説明。講座等の実施状況を吉田より説明。最後に資料整理の状況について、常松より説明いたします。

○野中資料調査研究員 それでは今年度の７月から９月にかけて開催いたしました、企画展について私の方から説明をさせていただきたいと思います。令和６年度企画展は「水とともに」を主題とし、副題を「睦村の歴史」として開催いたしました。主題としましては、水の関わりを基本としておりまして、エリアを睦村に限りまして、原始・古代から近・現代までの歴史を概観いたしました。また昨年は新川開削３００年、そして八千代の名称誕生から７０年にあたる年でもありましたので、そのことを念頭に置いて展示いたしました。原始・古代は、土器の中でも壺や甕を中心に展示し、中世は三方を水に囲まれた中世の城・吉橋城について。近世は３００年と

ということでそれを意識しまして、新川の開削の歴史。近現代につきましては「八千代町」というのが八千代の最初の名称でございますので、昭和29年になりますので、昭和29年前後の歴史と当時使われておりました2眼カメラや水鉄砲などの道具類や嫁入り道具などを展示いたしました。この展示会は市民の方にはもとより特に睦地区の方々にご覧いただき、睦の歴史や地理を、ごく一部ではございますが、ご理解いただけたようで、有意義な展示だったと考えております。以上で私の方から、企画展の説明を終わりにさせていただきたいと思います。

○**勝見主査補** 続いて、私から、学校連携についてご説明申し上げます。お手元の資料の2、3ページ。5学校連携をご参照いただければと思います。小・中・高校学校対応12月の末日にはございますが、館内見学については10件670名、出前授業については18件1,593名となっております。なお昨年度、令和5年度ですね、12月、同じ時点では、館内見学が10件607名、出前授業が14件1,073名となっております。また1月以降、館内見学が現在のところ4件、出前授業が14件を見込んでおります。3年生の昔の道具特に七輪・火熨斗・洗濯板だけこうしたものが、この後出前授業の主な活動体験になってくると思います。実績としましては、今のところ前年度を上回る予定ではございます。

また、今年度の大きな成果を2つ、お話したいと思います。1つ目が、他市からの依頼があったことでございます。今年度、船橋市と習志野市からご依頼がございまして、これまでの郷土博物館で、学校を担当されていた先生方の功績かと思えます。郷土博物館の魅力が市外に伝わることは大変喜ばしいことで、引き続きそうした情報を発信していくことも、1つ大事なかなと考えております。

また、もう1つとしまして、高校への出前授業と、館内学習が挙げられます。今年度市内の高等学校から出前授業及び館内での学習をしたいということで、ご依頼がありました。小・中、特に小学校を中心として、博物館としましては、出前授業等が多い事態ではございますが、なかなか中・高との連携が難しくなっております。そうした中で、今年度、高等学校から2件ご依頼があったことは、この先に繋がっていくのではないかなと考えておりますので、引き続き取り組みたいと思います。以上で私から学校連携について説明を終わります。

○**吉田文化財主事** 吉田より、今年度の講座の実施状況について御報告いたします。

今年度の講座については、おおむね前年度の内容を踏襲して、開催しております。受講者数については、ほぼすべての講座で横ばいの傾向です。各講座の詳しい人数の推移は、令和5年度の最終報告、及び令和6年度の中間報告を御参照ください。古文書講座については、収蔵する古文書の整理との兼ね合いから、初級編と中級編が、それぞれ2回ずつ実施回数を減らし、初級編2回、中級編1回を実施いたしました。3月には、古文書講座番外編と題しました、村絵図を活用したフィールドワークの講座を1回、新たに開講する予定です。

講座自体の回数は減少するため、前年度より講座参加者の合計は少なくなる見込みです。また、資料には掲載できておりませんが、1月13日には古文書講座中級編（全1回）を実施し、36名の方が参加されました。18日には自然観察会を実施し、14名の方が参加しました。また、19日には博物館上映会がおこなわれ、13名の方が来館されました。古文書講座は回数が減ったため、参加者も減ってしまいましたが、他の2つの講座については、おおむね前年度と同程度の方に参加していただいております。

講座の情報については、先ほど館長もお話ししました通り、『広報やちよ』、情報メールの他、八千代市公式LINEアカウントや、ポスター掲示などによって市民の方々へ周知をおこなっております。講座参加者の方に伺ったところ、特に広報やちよと情報メールを見て、ご応募された方が多かったように思われます。来年度以降も、同様に周知をおこなって参ります。私からは以上です。

○常松主任主事 私から、資料整理と調査・研究につきましてご説明いたします。資料整理につきましては、特に項目立てしておりません。関連するのは資料2（令和6年度事業報告 中間報告）の1ページの2資料の①収蔵資料になります。さきほど館長が申しましたとおりですが、これらにつきまして、収蔵室内あるいは常設展示室のしかるべきところに納めますとともに、当館で導入しております収蔵資料管理システムにデータ登録しております。あわせて資料台帳の整備も進めております。

次に、調査・研究につきましては、やはり、さきほど館長が申しましたとおりですが、継続的に行っております市内の民俗行事の調査について、調査票を配付してございます。市指定の無形民俗文化財であります勝田の獅子舞・佐山の獅子舞・村上の神楽などを映像などで記録しております。今年度は米本神社の大祭や時平神社の祭礼がありましたので、それらも記録しました。この映像記録につきましては、私どもが兼務しております文化伝承館の主催事業として年度末の3月に、「八千代の伝承文化を習おう」というテーマの一環として講座を開いて、市民の皆様にご報告するという流れをつくっております。

それから記載してございませんが、今年度中に、市指定文化財であります米本長福寺の板碑につきまして、当館で借りして調査する予定となっております。以上です。

○中村館長 長くなりましたが、以上で（1）令和5年度事業報告、（2）令和6年度事業報告（中間報告）の説明となります。

○久留島委員長 ありがとうございます。今の報告かなり盛りだくさんだったんですけれども、本当は順番通りやっていく必要があるかもしれませんけれども、時間もありませんので全体のご報告に合わせて、5・6年度についてご意見があれば、お聞かせいただきたいと思います。何か、ご質問・ご意見がございますでしょうか。

○齋木副委員長 齋木です。先ほどの挨拶でも話をしたんですけれども、コロナの影響というのがちょっと気になりまして。実は令和元年コロナに入る直前のデータをちょっとひっくり返してみたんですけれども、その時にですね、学校連携が館内見学13件、出前授業94件で、合わせて107件ですね。それから、同じくですねその時に、講師派遣事業、公民館とか市民団体の講師派遣ですけれども、20件。こっちの方はそれほどの差はないんですけれども、学校連携がですね、ものすごく大きな差が出てしまっているとなります。

先ほどもお話ししました。うちの千葉中央博もそうなんですけれども、とにかく学校の先生方が転勤などで変わってしまって、そうするとその学校でずっと受け継がれていた、この時期には博物館にお願いしてあれやってもらおうよと。こういうのがあるよねと、子ども達喜んでたしっていうそういう流れがですね、断ち切れてしまってそれが回復できていない。これはやっぱり大変なんだけど、いつも以上に頑張らないと元に戻らない。同じ事やってたら元に戻らないと困ると思うんで。教育長さんは退席なさってしまいましたけれども、学校側にも協力をいただいてですね、何とか戻して。かつてはとても盛んで喜んでいたはずですので、それをもう1回戻せるようにですね、私どもも頑張らないといけませんが、頑張っていいただければと思います。

○中村館長 実は令和元年当時はですね、勝見もそうなんですけど、教員の先生から職員になった者が2名おまして、午前中に先生1人行って午後にも行けるとか、結構幅広く回数多くやれていたんですが、今年度吉田も正職の学芸員という形で入ってきましたが、その分の枠がちょっと減ってしまっているんで、その分回数は減っていると思います。ただ今年度来た勝見と吉田で一生懸命です、今年度またまわしておりますので、また来年度以降増えるような形で取り組みたいと思います。

○久留島委員長 学校連携はコロナの影響が大きいと思います。それからインフルエンザも流行っているかもしれないし。それでもご無理のない形で計画的にやっていただければいいと思いますし、出前授業ってやっぱり経験するとすごく子ども達は喜びますので。どちらかというと出前授業が大幅に減った感じですよ。できればもう少しそういう計画を立ててやっていただければと。それからもう1つは、私もずっと経験してるんですけど、やっぱり少し、出前の内容を変えていきながらやっていかれると学校の方も喜ばれるんじゃないかなと思います。

○小林委員 まずですね、昨年度の予算決算の様子なんかちょっと見させていただきますと、かなり厳しい状況なんじゃないかなと思う中でこれだけの行事或いはいろんな展示を含めて実際に行われてるという。このご努力がもう敬服するなというばかりでございますが。

まず申し上げるならですね、最初に例えば企画展示ですと、企画提示関係で、1日平均するとこれ大体40～50名程度になろうかと思うんですね。ですからこういったものに対しての市民の期待は非常に大きいんだなということをつくづく感じますが、その中でそういった展示がですね、非常に工夫されてテーマも非常に魅力あるものが多くて。そんなことで引き続き、今後もこの形態で進んでいただければ大変ありがたいなと思うんですが。

1つ問題としてですね。例えば収蔵品1つにしましてもね、昨年度の集計から今年度の中間報告なんかを見ますと、かなりそれだけで増えてるんですよ。そうすると収蔵能力は大丈夫なのかなんて気になるところなんです。そういった点についてお伺いしたいなということとですね。

もう1点、デジタル化が盛んになってくると思うんですが。そのデジタル化のですね、利用状況活用状況、そういったものはどうかないうところをちょっとお聞きできればなと思うんですが。

とりあえずこの2点をお聞きしたいと思います。

○常松主任主事 まず、その収蔵能力がご心配ということですけども、確かにそれはございます。収蔵室はもう増えるということはありませんので、その点に関しましては、資料の収納方法を結局いろいろとその範囲の中で見直して収めるようにしているというのが実情ですね。それに関しまして特に今新たな方策があるというわけではないんですけども、効率のよい収納方法を考えるということで今のところは推移しているというところでございます。

○勝見主査補 当館のデジタル化についてですが、収蔵品関係に関しましては、なかなか私も把握していない所が正直ございますが、今年度はデジタル化の部分でですね、今お配りしております館報に関しまして、本年度からインターネットで市の公式サイトに上げましてそちらから取っていただくという形で、デジタル化の方はできるところから少しずつ進めて行っております。これまで職員でやっていたものを、できる限り負担の軽減及び、そうした形で、これからはしていきたいと考えております。

○久留島委員長 今のお話ですけど。おそらくデジタル化っていうのはそういった資料をどう伝えているかということだと思うんですね。収納する場所がどんどんなくなっていく、その代わりにデジタル化をしてそれを見せたりするような努力をして。収蔵の方法はどうするかっていう問題はまだまだありますけども。それを広げていってるかというご質問だったんだと思いますが、いかがでしょう。デジタル化がどの程度進んでいるのか或いはデジタル化がどのぐらい利用されておられるのかというのを。

○中村館長 デジタル化という部分では昨年に英和高校さんと一緒に実施させてもらった古文書のデジタル化っていうのをやってみたんですけど、ちょっとそれ以外の部分がまだ進んでないという状況になっております。その大きな理由としては、やはり古文書の整理がなかなか追いついていないという部分がありまして。今後古文書のデジタル化をするにあたっては、まずは整理は長年言っ

ている部分ではあるんですが、まずは早急にそれを進めないことにはちょっとデジタル化が難しいかなと思います。

民俗なんかもやっぱり立体物につきましては、やっぱり3D画像とか撮らないといけないとなつて、中央図書館と一緒に『3万年の足跡』という形でデジタル化してるんですが、そちらもですね中央図書館の方で委託事業で3D写真を撮るとかしてくれましたんで、こちらの方で経費はかからなかったということになりました。現状ではですね、3D化ができるような写真のための予算っていうのはちょっと考えておりませんので、今後そういうのも課題となっていくかなということは考えております。

○八巻委員 学校連携とか講座とかに関してですね、実は私大和田小学校のPTAもやってまして、時平神社の祭礼とかあって氏子の皆さんとかなかなか山車の引き手がいなくて、神輿の担ぎ手がいなくてというときに、何とか学校と連携してやっていけないかねなんていう話を大和田小のコミュニティスクールがあるのでそこに入ってる方とかとお話する中で、お囃子を小学生にやってもらうとかっていうところでやっていたんですけど、この市内民俗行事の調査票っていうので、おそらく映像資料を残されているのかなというところで、学校連携もそうなんですけど、そのお祭りとかがある、地域の歴史的な行事がある前に、その前の時期にその学校とか行って地域の歴史に触れる映像と報告とか説明とかをしていただけると、歴史に触れるところもそうだし地域の子ども達もその町に興味を持ってもらうとかっていうところが、もう少し発展していくのかなというところがありますので、結構この報告書を見る限りだといろんなところに出向いてやっているの、地域の子ども達にその地域・地域の歴史を教えるような講座というのも是非開催していただきたいなところなんです。

○中村館長 確かに地域ごとに説明ということで、時平神社ではないんですが、高津比咩神社の方でやってるオビシャとかそういうものをですね、地元の行事を説明して欲しいというような依頼もありますので、今後そういう形でうちの方でも資料を持っていますということで学校さんの方に提案してですね、今後に活かせるような形で講座が開けたらなっていうのはちょっと考えていきたいと思っています。

○久留島委員長 私の方からちょっと申し上げたいことが3点ぐらいございます。

1つは、原資料をどうされてるかっていう。つまり八千代市史はすごく素晴らしいし、かつ作られて、私もそれで勉強させていただいたんですけども。その時に、しっかり調査されてですね、あとですねどの程度まだ残っているのかなっていうことがちょっと気になって。今日の資料見ますと古文書は150点ぐらい増えてるようなんですけども、そういう形でまだまだ残ってると思うんですけども、そういうのをどういうふうな形で今後やられるつもりでいるかっていうのが1つと。

もう1つ心配してるのは大地震がこれから、私が生きてる間に起こるかはあやしいですけども、でもやっぱり起こることはほぼ確実だというふうに言われてるので。そのことも含めて考えると、やっぱり原資料をどうやって保全するか地域で保全するかって。これ自身はもう、市の方で地域資料ですね、保全活用計画はおそらく立てられていると思うんですけど。この辺りはどうなってるかちょっとお聞かせいただいてですね、原資料をどうするかということをお教えいただければと思います。そのことはさっきおっしゃっておられた、やっぱり古文書の整理・調査研究っていうのがなかなか進んでおられないという状況ですけども。ここを落としてしまうと、どうも見ると、民俗が駄目だという意味じゃなくて、民俗研究してるけどもその文献資料の調査研究がどこまでやってるかっていうのがなかなか見えてこない。講座を一生懸命されているんですけども、実際にそこからおそらく古文書読む方が増えてくんだと思うんですけど。若い方がどの程度来られていてですね、若い方がどの程度参加するかってのが今後の勝負になってくというふうに思ってる

んですけども。その辺りの参加状況ちょっと教えていただければというのが2つ目です。

3つ目は先ほどおっしゃっておられた学校連携にも関わってですね。去年は石井先生なんか为中心になって英和高校の生徒さんがデジタル撮影して私もちょっと一緒に見学させていただきましたけども。これすごくいい試みだとは思ったんですけども、やっぱりそういう形のものを含めてですね、何か継続できるか、或いは少し追加予算を取って博物館として継続的にやっていくと長期計画を立てないとデジタル化はなかなか進まないなと思いました。その辺り3点についてお考えをお聞かせいただければと思います。

○中村館長 それでは最初の資料調査の状況ですけど、現状としては家別122件っていう数は一応把握してるんですけど、その内訳の方がまだ進んでないっていうことで、会計年度職員なども追加して作業を一応進めています。

また2番目の若い人っていうわけでもないんですけど、もともと当館の古文書同好会っていう団体があったんですけど、そちらの方も今積極的に参加してもらいまして、まずは古文書を読める人間が集中的に読む前に、軽く全体的にそういう古文書同好会などを活用して、全体的な、7、8割ぐらい読めるぐらいな形で協力してもらおうっていうような形を一応進めております。その中では若い人っていうのがなかなか入ってきづらいところがあって、やっぱり今後も古文書講座というようなもので、もっとくずし字を読めるような講座とか、もっと入門向けみたいなものを作って、進めていくしかないかなっていうふうに思っているのと、あとはやはり高校とか大学生とかある程度基礎知識がある方の協力なんかも得ることができればいいかなとは思っております。

長期的な部分につきましてはですね、なかなか難しいところではあるんですけど、まずは現状分類ができてないっていう部分があるので、それをやった後、写真を撮るっていうことをまず重要だと思いますので、そういうものからどんどん進めていって、いずれA Iで読めるとかそういう時代になっちゃうかもしれないんですけど。そういうものに対応するにもやはりそういうデジタル化っていうのは必要だと思いますので、それに向けたことっていうのはやっぱりやってくることは必要だと思いますので、今後はデジタル化を考えていく必要があると思っております。

○久留島委員長 ありがとうございます。勝手なことを申しましたが、最後に言いたいのはやっぱり、できるだけ予算はつけていただけるように。本当は教育長にお願いしなきゃいけないと思うんですけど。

なぜ先ほど壱岐国の話をしたかっていうと、観光資源なんですね。観光客から落ちるお金って、やっぱりかなりあるってことが1つあるんですけど。それでもそれにプラスしてやっぱり市の方が継続的にお金をやっぱり積んでいかれておられますよね。あそこは考古ですから発掘が命なんですけど。市の方では是非、地道なことで結構なんですけれども、古文書の調査研究というところはやっていただいたらいいんじゃないかなというふうに思っています。私も近世史が専門なのでちょっと肩入れし過ぎているかもしれませんが、その辺りは是非お願いしたい。それから、地域資料の中でやっぱり近世資料がベースになっています。地図を見ながら歩くっていうのは、本当にいいことだと思うんですね。地図を見ながら現地を歩く、そのことによってやっぱり自分の住んでる地域は江戸時代はどうだったのかってわかるんですね。私は歴史講座でそういうことを何度かやったことがあるんですけど。PTAの方たちと一緒に歩いてみるとかですね、そういう企画をしてみると、また広がっていくような気がいたしましたけども。(委員に)先生方、他にはございませんか?(なし)もしなければ最後にもう一度ご意見頂戴しますけど。

では続いて来年度といいますか、令和7年度の事業計画のご説明をお願いいたします。

(3) 令和7年度八千代市立郷土博物館事業計画(案)(骨子)

○中村館長 令和7年度八千代市立郷土博物館事業計画（案）（骨子）について説明いたします。

令和7年度については、引き続き郷土博物館利用者や市民の方々への郷土理解を図るために、企画展示等の各種事業を開催すると共に、令和4年度から課題となってきた資料の整理について進めていきます。

2 資料については、前年度に引続き市域を中心とした様々な資料の収集・保管・管理を行い、古文書などの資料の修補や寄贈された図書資料等を活用していきます。

また収蔵している資料の整理については、今年度も民俗資料の資料整理を中心として進めていましたが、令和7年度からは古文書の整理も出来るだけ進めたいと考えております。

3 調査・研究については、行事の開催状況の情報収集を行いつつ、調査研究や現地確認を進めていきます。令和7年度も引き続きロビー展示となる「やち博コレクション」を活用して調査・研究の進捗状況や成果も展示していきたいと考えています。

4 展示については、企画展が1回となっております。それ以外の特別展示やロビー展示等の展示については、現時点では令和6年度並みに計画しております。

5 学校連携については、出前講座や館内見学等に可能な限り郷土博物館全職員で協力しながら進めていきます。

令和7年度については、現時点では博物館教育への連携についての計画は有りませんが、もし高等学校等との調整ができれば検討していきたいと考えています。

6 市民学習の支援についても、様々な観察会や体験・講座を令和5年度並みに計画していますが、博物館の資料整理という課題が出ていることから、時間や職員を割く必要があることから、進捗状況によっては講座減少も必要と考えています。

7 地域協働については、令和6年度に開催した、伝統衣装体験を7年度も引き続き実施する方向で計画しています。

8 広報についても、前年度に引続き、ホームページや広報やちよ、SNS、地域新聞等を活用した情報発信を継続して行っていきます。

9 博物館協議会は来年度についても、令和8年の1月末から2月初め頃に1回を予定しております。

なお予算については、令和6年度に引き続き墨書土器の複製品作成業務委託等を要望しております。

以上が議題（3）令和7年度 八千代市立郷土博物館事業計画（案）（骨子）の説明となります。

○久留島委員長 委員の皆様から何かご質問ございますか？

○齋木副委員長 先ほどと同様にですね、以前の資料を見返してみるとですね、平成31年度を見ると企画展が年3回になってまして、この予算を見ると、とても3回もできる予算ではないし、人も併任になってますよね。非常に苦しいので、できるはずはないんですけども。全体としてこの博物館がせっかく非常に良い、中身の評価も高いのに変わらず、だんだんだんだん縮小傾向にあるように見えて仕方がない。何とかですね、市の方には、これまでの実績とか効果を訴えてですね、いろんな面で増やして人員を確保していただけるようお願いしたいなと思ってます。やればね、市民の皆さんが喜んで来て学習していただけている実績はありますので。建物はしっかりあって、同じだけの維持費もかかっているのに中でやることがないので利用が減ってしまうというのは本当にもったいないと思うので、是非とも考えてやっていただければと思っています。

○中村館長 ありがとうございます。企画展については、確かに以前は3回やってたんですけど、当時は館長も含めて学芸員が3名いたんですね。今年度は1人増えて常松と吉田の2人になってはい

るんですけど。吉田はまだ今年1年目ということで、いずれ時期を見て増やすこともあるとは思いますが。やはり準備に1年とか2年ということを見ると、そんなに多くしても逆に内容が薄くなってしまったり、もしくは前年度の焼き直しみたいな形になってしまうと寂しいものがありますので。そこら辺についてはちょっと申し訳ないんですけど回数を少なくして、できれば来年度以後にあればという形で、現在は縮小しているというふうな状況になっております。

○久留島委員長 私博物館も企画展は年に1回になってしまいました。予算が毎年確実に減っていきますので。できなければ恥ずかしいし、国民の期待に答えてないということになります。やはりさっきおっしゃったように、企画展示が命ですね。どうしても企画展示をできるだけ作っていくということですね。そのためには調査研究が必要だと。今回見せいただいた資料のところ「収集保管管理」になってるんですけど、「収集」と「保管」の間にやっぱり「調査研究」を入れるべきじゃないかと。そう謳^{うた}っていくべきだと。それから調査研究も民俗行事だけではなくて、そういうものを含め調査研究するとか。調査研究すれば、そこからもう新しい展示の論点が出てくるんじゃないかなという。今回も後で見せていただきたいと思っているんですけど、そういう1つの村を取り上げたってできるわけですね、資料があれば、あと調査研究できれば。そういう時間と人は是非。やっぱり予算の問題と最後言っちゃうんですけど、頑張っていたいただければなど。こういう協議会は、博物館に対して予算をつけて欲しいと訴えることも役割と思っていますので。是非そういう声があったということをお伝えいただきながら頑張っていたいただければいいと思います。

そしたら一応今日の今まで説明していただいたものについてはですね、ご了解いただいたということをお判断しなきゃいけないと思いますけども。ここで議題を進み、今までも出していただいた議題についてはご承認いただいたということによろしいですか？（委員異論なし）

視察

（1）令和6年度 特別展「くらしのうつりかわり展 ～衣食住と学～」

○久留島委員長 それでは、議題が承認されたということで、次の事務局の方から、おそらく企画展示の見学というのがあると思いますがよろしくお願ひしたいと思います。

○勝見主査補 それでは私が企画展示室までご案内差し上げて、簡単にご紹介差し上げたいと思いますので、ご準備の方お願ひしたいと思います。なお視察終了後は学習室に戻りますので、お荷物はそのままお席の上に置いていただいて結構ですので、どうぞよろしくお願ひいたします。

（企画展を視察）

（視察終了後）

○久留島委員長 議事は承諾を得て終わったことにしていますので、これで終わりますけれども。最後に委員の方、何かご意見はございますか？（なし）現場ですごく大事な学校資料の問題をおっしゃっていただきまして、それもおそらく調査研究の対象にしないと駄目かなと。現代資料がなくなっていくことも含めてね。近代、特に現代資料なんて本当になくなっちゃうんで。下手をすると、100年後に現代がわかんなくなっちゃう可能性だってありますし。そういうことも含めて是非。ちょっと大変だと思うし、今の人員で全部やるってのはなかなか難しいかもしれませんが。予算と人員っていうのは要求し続けていかないと増えないので。それではこれで令和6年度第1回八千代立郷土博物館協議会は閉会させていただきます。どうもご協力ありがとうございました。

○**勝見主査補** 本日はご多忙の中，令和6年度 第1回八千代市立郷土博物館協議会にご参加いただき，ありがとうございました。会議は以上になります。お帰りの際は，忘れ物など無いよう，お願いします。本日はありがとうございました。